

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	その他飲食〔居 酒屋〕（店長）	来客数の動き	・当地は今、景気がとても良い。九州新幹線全線開業により、県外から当地に来る客が増えている。
	やや良く なっている	商店街（代表 者）	販売量の動き	・3か月前に比べて人の動きは非常に良くなってきている。現時点は少し低調であるが、総じて売上は伸びている。販売数量、人の動き等に活発さが出ている。
		一般小売店〔精 肉〕（店員）	販売量の動き	・通常5月は売上が落ち込む時期だが、今月は順調に利益が出ている。
		一般小売店〔生 花〕（経営者）	販売量の動き	・5月は3か月前の2月よりも母の日、春の開店祝い の花などの需要があり、良かった。ただ母の日は一番 良い年の販売量の3分の1程になっている。努力不足 もあるかもしれないが、母の日だからと言って、花を 購入する客が減っている。
		百貨店（売場主 任）	販売量の動き	・3～5月は増収、増益である。紳士服、子供服は前 年割れで推移しているが、婦人服、洋品、特選の商品 群を中心に売上は堅調である。前年が震災の影響で、 高額品を中心に売上が不振であったことを差し引いて も景気は良い。
		百貨店（営業政 策担当）	来客数の動き	・前年のエリア内の競合激化の反動もあり、来客数、 売上ともにやや回復基調にある。
		百貨店（業務担 当）	販売量の動き	・前年の震災後は消費に対する弱さがあったが、今年 は消耗品の販売が堅調である。アクセサリーを含めた 装飾品、ファッション関連の販売についても日々、堅 調に動いている。
		百貨店（売場担 当）	販売量の動き	・売上は前年比7.5%増、来客数も同2%増となっ ている。3か月前の売上が前年比6.4%増、来客数は同 1.3%減から改善している。特に今月は前年にあった 競合店の売り尽くしセール の反動増があり、婦人衣料 品は前年比20%増、紳士服は同6%増、身の回り品で 同9%増、食料品でも同7%増とかなり良くなってい る。同じ商圏の同業2店の状況を見ると、1つは前年 比2.2%増、もう1つは同6%増となっており、景気 はやや良い。今月の特徴は、客単価、1品単価は前年 を下回っているが、買上点数と購買率が前年比5%増 となっている点である。
		スーパー（経理 担当）	販売量の動き	・前年は青果物、米などを中心に急激に売上が減少し たが、今月は回復している。
		衣料品専門店 （総務担当）	お客様の様子	・宝石の催事において、物に納得すれば少々値段が高 くても購入する客がちらほら出ている。客の消費動向 をみる限り、景気は若干上向きである。
		都市型ホテル （副支配人）	単価の動き	・例年より団体客は少ないが、個人客の単価が少しず つ上がっている。
		旅行代理店（従 業員）	販売量の動き	・ゴールデンウィーク以降も予約は順調である。東京 スカイツリーの開業や海外リゾートへの増便など旅行 に関する話題が増えているのもプラス要因である。
		旅行代理店（企 画）	お客様の様子	・来客数が増加しており、夏の旅行シーズンに向けて 客の動きが活発になりつつある。
		その他サービス の動向を把握で きる者〔介護 サービス〕（管 理担当）	単価の動き	・季節的に今後、客の増加が期待できるとともに、不 安要素であった介護報酬改定に伴う減収への影響が予 想よりも少ない。
		設計事務所（代 表）	来客数の動き	・仕事の資料請求が増えている。
	住宅販売会社 （代表）	販売量の動き	・当地の新築住宅への問い合わせが前年比で2倍ほど になっている。リフォームに関しては平年並みである が、市のリフォーム支援事業の問い合わせが15件で総 額1,500万円ほど発生しており、補助金等のきっかけ などがあればリフォーム市場は一気に動く実感した。 新築に関しては消費税増税の件で少し問い合わせ が多くなっている。	
変わらない	商店街（代表 者）	来客数の動き	・天候不順の春に比べ、気温の上昇とともに夏物商材 に動きがみえ始めている。	
	商店街（代表 者）	お客様の様子	・3月は卒業、入学、就職、結婚などを控え、買い控 え傾向が強かったが、今月もゴールデンウィークでか なりの出費をしており、買い控えの傾向は続してい る。	

商店街（代表者）	来客数の動き	・5月は好天が続き、郊外の大型店及び行楽地に客が流れ、商店街の来客数が一段と減少した。取り巻く環境は変わらず厳しい。
商店街（代表者）	来客数の動き	・年々ゴールデンウィークに商店街を街来する人はかなり少なくなっている。
商店街（代表者）	お客様の様子	・商店街の飲食業店が特に悪いが、物品販売業も販売量が減少している。
一般小売店〔青果〕（店長）	競争相手の様子	・同業他社のチラシが増えており、当店の売行きは鈍い。また大型店でも日曜日の昼から夕方にかけての来客数は少なく、消費動向は鈍くなっている。
百貨店（総務担当）	販売量の動き	・アパレルテナントの売上は回復基調にあるものの、飲食、特に宴会需要が震災前の水準に戻らず、全体の底上げができていない。
百貨店（営業担当）	お客様の様子	・売上は何とか実績をクリアした。内容をみると本当に必要とする物、非常に機能性が高い物など特徴のある物は支持されているが、その他の高額品等の動きはまだまだ鈍い。
百貨店（営業担当）	単価の動き	・前月上旬向きかけた買上単価はやや下降気味となっており、現金、クレジット利用共に前年の水準に達しなかった。クレジット利用の来客数は過去2年間増加しているが、クレジット単価は低下している。一部高額品の動きはみられるが、波及効果は弱い。
百貨店（企画）	販売量の動き	・食品関連は好調に推移しているが、衣料品、身の回り品が停滞気味である。
百貨店（営業統括）	来客数の動き	・地方都市の中心部では、来街者を含めて来店客が増えない状況が続いている。
スーパー（経営者）	単価の動き	・景気の変動がみえにくい状況となっている。
スーパー（店長）	販売量の動き	・単価の下落傾向が続いている。提供価格で販売量が変わる度合いが3か月前より強くなっている。
スーパー（店長）	お客様の様子	・競合店が半径1キロメートル圏内にでき、来客数が前年比18%減の状況が続いている。競合店ができ、精肉の売上が前年比23%落ち込んでおり、今後が懸念される。
スーパー（店長）	来客数の動き	・買上点数は増えているが、やはり来客数が回復しない。
スーパー（店長）	来客数の動き	・競合店の出店等の影響もあり、来客数及び客単価は共に食品、雑貨、衣料いずれも非常に厳しい状況となっている。ただ、旅行部門に関しては震災後の落ち込みと比べるとかなり伸びている。
スーパー（業務担当）	お客様の様子	・すべての商品群において買い控えの傾向が続いている。特に単価の高い衣料関係では、一日の寒暖差が大きいため、夏物の先行販売が伸び悩んでいる。購買意欲をかきたてるほどの季節感のない天候が続く限り、販売動向に変化はない。
コンビニ（エリア担当）	競争相手の様子	・今月は天候不順につき、主力の夏物商品の売行きが悪く、売上も下がっている。また大手コンビニエンスストアチェーンの大量出店により、競合の波にのみ込まれ、売上が減少し厳しい状況である。
コンビニ（店長）	販売量の動き	・ゴールデンウィークの影響や税金を納める代行収納がかなり多く、来客数は多かったが、売上は3月と変わらないかやや減少している。
コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・売上は前年比5.1%増となっている。4月よりは増加するもののほぼ3月と同等である。ここ数年県外資本の量販店が増えるなか、パイの取り合いという状況である。そういった状況下で、今月は少し良くなっている。
コンビニ（エリア担当・店長）	単価の動き	・700円につきくじを1枚引けるキャンペーンをしているが、以前に比べて700円以上の買物客が減っている。プラス1品の客が増えれば、これまでのキャンペーンと変わらない状況となるが、厳しい状況である。また、来客数は少し伸びているが、客単価が減っている。
衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・来客数が少なく、前年割れとなった。ただ同じフロアのシニア向けのショップは好調となっている。

衣料品専門店 (取締役)	お客様の様子	・季節の端境期である2月は1年のうへでも最も厳しい時期なので、それに比べれば5月の数字は良くなっている。また、前年の5月に比べると売上がやや上昇しており、震災の非常事態からようやく回復している。景気が良くなっているのではなく、震災前の状況に戻っている程度のものである。
衣料品専門店 (チーフ)	お客様の様子	・今年は例年以上にクールビズの傾向が早まり、5月初めからクールビズを実施する会社が見受けられる。そのなかでスーツの動きが悪く、シャツの単品買いが増えている。
家電量販店(店員)	販売量の動き	・前年の8月以降、テレビ販売の低迷状態が続いており、ずっと景気が悪い状態が続いている。一向に抜け出す気配がない。7、8月ごろまではこの景気が続く。
乗用車販売店 (代表)	競争相手の様子	・同業者との会話のなかで、景気が上向きになっているような話は出てこない。
乗用車販売店 (販売担当)	販売量の動き	・自動車業界はエコカー補助金があり、3か月前と比べると販売量は増えている。ただ予算の限りがあり、予算がなくなった時、その反動が出てこないか懸念材料はある。
乗用車販売店 (総務担当)	販売量の動き	・エコカー補助金の効果で新車販売が好調に推移している。中古車販売、サービスの売上も堅調であり、今年に入ってから売上、利益共に高いレベルが続いている。
住関連専門店 (経営者)	来客数の動き	・先月から毎月行っているキャンペーンが不調で、今月も良くない。2年前からの新部門は少しずつ実績を出しているが、採算ラインまでは達していない。毎年ゴールデンウィークから減少するが、今年は極端に良くない。
その他専門店 [コーヒー豆] (経営者)	お客様の様子	・例年の売上をみていると、前年と同じ月は売上のにはまず横ばいのような状態である。春先にかけて、コーヒーの需要はあるが、これから時期的に梅雨に入り客の外出機会が少なくなるため、5、6月の売上は例年通り下がる。
その他専門店 [ガソリンスタンド](統括)	販売量の動き	・燃料油の小売価格は下げ基調となっているが、前年と販売量を比較してもさほど変わらない。携帯電話の販売については、スマートフォンの販売が好調で、例年より長い繁忙期となっている。
その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター] (支配人)	販売量の動き	・特殊要因を除くと物販の売上は、前年とほぼ同じである。
その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター] (支配人)	来客数の動き	・前年と比べて、5月の日曜・祝日が2日減少しており、全体の比較が難しい。
その他小売の動向を把握できる者 [土産卸売] (従業員)	販売量の動き	・ゴールデンウィーク中の売上は前年並みか若干それを下回った。ただ中旬以降、売上が増え、前年比2%増となった。
高級レストラン (専務)	お客様の様子	・来客数は1年前とそれほど変わらないが、観光客の動きが良い。また単価は低いものの宴会の動きがそこそこある。
高級レストラン (支配人)	来客数の動き	・前年と比較すると売上はやや減少気味である。
高級レストラン (従業員)	来客数の動き	・ゴールデンウィークが明けた時期は来客数が減少した。
スナック(経営者)	来客数の動き	・週末営業の落ち込みが特にひどく、以前のようなグループ客がほとんどみられない。
観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・前年もゴールデンウィーク前から自粛ムードがなくなり、観光客が増え始めたが、今年はそれを上回って増加している。宴会も平年並みに戻っている。
都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・5月は活発な動きがみられた。ただ予約状況から、6月以降は一昨年と比較しても変わらない状況である。
タクシー運転手	お客様の様子	・季節的に過ごしやすくなり、人の流れは良くなった。ただタクシーを利用する人は少ない。

	タクシー運転手	来客数の動き	・歓楽街の平日の夜は、客の動きがさっぱりである。サラリーマンをあまりみなくなった。しかし、金曜日、土曜日はそれなりに動きがある。ただ、以前と比べるとかなり悪い状況である。
	タクシー運転手	来客数の動き	・今月はゴールデンウィークが明けてから、特に週末の客の動きが良く、昼も夜も県外の客の動きが大変良い。また夜の繁華街の客の動きも今までになく良かった。
	通信会社（管理担当）	それ以外	・資金繰りが厳しい状態が続いている。
	通信会社（業務担当）	販売量の動き	・5月は例年、一番販売台数が少ないが、今年はスマートフォン人気に加え、今月までの携帯会社施策で購入単価が実質下がったことにより、駆け込み需要があり、販売数が伸びている。
	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・携帯電話販売で客を訪問するが、どこに行っても景気が良いという話は聞かない。ほとんどの企業で良くないという話を聞いている。
	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク中は県外客の来場も多く、周りではタクシーや飲食店等も非常ににぎわっていた。また新規空路の就航により、台湾人の客も大分増えており、好調さを維持している。
	ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・例年に比べて天候に恵まれており、入場者数は堅実に推移している。客単価は年々下がっているが、今年は少ない下げ幅にとどまっている。
	競馬場（職員）	来客数の動き	・来客数の動きをみる限り、相変わらず景気は悪い。
	美容室（経営者）	それ以外	・美容業が不景気である。チラシなどで広告しなければ、客は来ない。
	美容室（店長）	お客様の様子	・ゴールデンウィークが終わり消費者は普通の生活に戻っている。景気は良くも悪くもない。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・5月は販売量、来客数共に非常に落ち込んでいる。
	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	販売量の動き	・新茶を入荷し、販売しているが、数年前と比較ができないほど減少している。消費者の購入時の慎重さは変わらずである。来客数もかなり減っている。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク期間中は来客数、販売量共に前年比で減少している。また、気温が低めということもあり、夏物衣料が苦戦している。前年好調だったクーポンピズや省エネ、エコ商品についても前年ほどの販売には至っていない。ただ一部、前年の震災後厳しかった旅行や貴金属関係は前年の反動で好調となっている。
	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・近隣に競合店が出店した影響もあるが、来客数が前年割れとなっている。
	自動車備品販売店（従業員）	単価の動き	・原子力発電所の休止による経済損失が34億円発生しているとの新聞報道があり、景気は低迷する。
	その他専門店〔書籍〕（地区支配人）	販売量の動き	・商業施設の新設意欲がおう盛で購買力のある層は新規店舗に引っ張られる。既存店はその競合にさらされ、周辺も前年の販売量を超えることができていない。
	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク明けの客の動きが予想通り悪かった。例年、ゴールデンウィーク明けは会社もまだ落ち着いておらず、動きは鈍くなるが、今年は例年になく非常に悪かった。
	タクシー運転手	お客様の様子	・月、火、水曜日はタクシーも人の動きも悪く、金、土曜日に動きが少しみられるだけとなり、景気は悪い。
	通信会社（総務局）	販売量の動き	・新規契約数は前年の地上デジタル放送完全移行による駆け込み需要の反動で大幅にマイナスとなった。その前の年と比較しても2割減で推移している。
	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・通信サービスの解約者が多い。
	その他サービスの動向を把握できる者〔フィットネスクラブ〕（営業）	来客数の動き	・地域経済は九州新幹線全線開業後、観光や建設業で前年より伸びている。ただ各家庭ではフィットネス等への出費は抑えられている。
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・仲介関係の売買等の問い合わせ数があまり変わらない。また、成約数が非常に減っており、景気、売上は悪くなっている。

	悪く なっている	一般小売店〔鮮魚〕(店員)	来客数の動き	・来客数が本当に少なく、販売量も減っている。さらに単価も上がらず厳しい状況となっている。
		百貨店(営業担当)	お客様の様子	・高額品の動きが少し鈍くなっている。また、衣料品については気温の問題もあるが、夏物の動きが悪い。心理的な影響も非常に強く、欧州の信用不安の再燃からくる円高や株価問題等が消費マインドを冷え込ませている。3か月前に比べて景気は少し悪くなっている。
		スーパー(店長)	競争相手の様子	・競合店のディスカウントスーパーが3月末に出店して以来、非常に客が減っている。
		スーパー(総務担当)	競争相手の様子	・低額商品のみならず比較的高額品についても、積極的な購買意欲がみえ、景気の回復基調は感じられるが、同業種間で熾烈な競争を極めており、回復への後押しには至っていない。
		衣料品専門店(経営者)	お客様の様子	・ゴールデンウィークで客の購買意欲が減っており、天候も寒い日が多く、夏場に向けての動きが全然出ていない。
		衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・来客数をみてもだんだん景気が悪くなっている。特に衣料品の場合、大型店やチェーン店による影響が大きい。
企業 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	家具製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・今年に入ってから4月までの忙しさとは裏腹に5月はゴールデンウィーク明けから急に暇になっている。ただし前年度と比較すると15%程度は受注額が伸びており、景気は良い。
		建設業(社員)	競争相手の様子	・官公庁の工事が発注され始めている。徐々にではあるが件数も増えている。ただ受注の偏りが出ないかが懸念される。一般競争入札の拡大により、積算力のある企業とない企業の差が出てくる。
	変わらない	農林水産業(経営者)	受注量や販売量の動き	・5月は4月に比べると若干上向きしてきた。ただ前年比ではまだまだ厳しい。特に量販店やスーパー、居酒屋あたりが伸び悩んでいる。やはり前年の生食事件が影響している。しかし冷食加工メーカー向けの加工原料の引き合いは相変わらず強い。
		食料品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・生産品目の違いはあるが、比較的順調に稼働している。
		一般機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・受注量が減少傾向にある。
		電気機械器具製造業(経営者)	受注価格や販売価格の動き	・仕事量はあるが競争が非常に厳しく、価格や納期面の条件が厳しくなっている。人材育成をしなければ現状の状態で経営をしていくことは非常に厳しくなっていく。
		電気機械器具製造業(経営者)	取引先の様子	・半導体関係が非常に悪い状況で不透明さが一段と増している。
		精密機械器具製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・今月までは生産量が変わらず、まだまだ下向き傾向である。
		輸送業(総務)	受注量や販売量の動き	・荷物の動きが良くない。
		金融業(得意先担当)	取引先の様子	・これまで多かった条件変更の申込や相談件数が大きく減っている。そういった状況から、景気はやや回復傾向にある。ただ取引先企業の代理店の方に聞くと、依然として状況は厳しいという話も聞くので、当面は状況をみる必要がある。
		金融業(営業)	取引先の様子	・企業の設備投資は、一定の水準にある。しかし、需要が増加しているとは言えない。
		金融業(調査担当)	取引先の様子	・預金量、貸金量共に3か月前と比べ、大きな変化はない。また、金融円滑化法の延長が決定されたことに加え、倒産等にも大きな変化はみられないことから、景気の方向性に変化は感じられない。
		金融業(営業担当)	取引先の様子	・年商1億円前後の中小企業の利益率は低位のままである。借入金の償還力も十分でなく、負債は減少していない。借入中心で資金繰りをまかなっている状況である。
		新聞社[広告](担当者)	受注価格や販売価格の動き	・健康食品や化粧品の広告出稿は引き続き好調で、前年を超える売上である。旅行広告の伸びは悪く、全体ではわずかに前年比マイナスとなっている。
経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・コンサルタント業は、営業をしてもなかなか成約に結びつかない。		

	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・客の話から、ここ1か月位は悪い話を聞かないし、前年よりも若干良いというところが多い。ただ、とても良いという状況ではなく、現状維持か、少し好転している程度のものである。	
	経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・自社の受注状況に大きな変化はなく、また取引先と業績に関する意見交換をしても、変化の予兆は見受けられない。	
やや悪くなっている	繊維工業（営業担当）	それ以外	・ヨーロッパやアメリカ等の経済状況の影響が大きく、景気は良くならない。国内でも円高や消費税、原子力発電所、電気など問題が多過ぎる。国内工場が少なくなり、個別には受注はあるが、利益はない。	
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年、機械部品加工の受注量はゴールデンウィーク中に減り、5月後半に増えるが、今年は逆に目減りしている。	
	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・4月の荷動きは悪かったが、今月は先月よりも更に悪くなっている。荷主は商品が動くと思って輸入して在庫をかかえているが、思った以上に商品の出が悪い。倉庫は保管残高が増えているが、物が出ていかないため、利益は減少傾向にある。	
	輸送業（総務担当）	取引先の様子	・預かっている荷物全般の荷動きが悪くなっている。	
	その他サービス業〔物品リース〕（役員）	受注量や販売量の動き	・設備投資における引合件数、金額共に減少傾向にある。そのなかで業界の競争激化、低レート化により、受注環境はますます悪化しつつある。	
悪くなっている	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前年より受注、売上ともに不振になっており、景気は本当に悪くなっている。また、燃料であるガスの単価が2割ほどアップし、業績に大いに悪い影響を与えており、四苦八苦している。受注が悪いのに加え、原材料価格の上昇があり、思うように受注が取れない。	
	経営コンサルタント（社員）	受注量や販売量の動き	・不良在庫が過多となり、ディスカウントしても売れない。	
	その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	取引先の様子	・市町村が行う建設事業は減少傾向が続き、公共建築の耐震化など最低限必要な物に限られている。事業単価も低く、発注時の予定価格が低いため、入札時に大きく値引きをすると利益が残らない構造になっている。市町村によっては、事業単価が低い案件を集めて一括発注されるような案件も出ており、安く受注すると数多くの作業が発生し、受注業者の負担が大きくなる。	
雇用関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・接客や食品製造など、業界は限られるが中元商戦に向けての求人が増えている。
		職業安定所（職業相談）	求人数の動き	・新規求人数は今のところ増加傾向にあるが、求職者数については減少傾向となっている。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・システム系やホテル・航空などの観光系の求人が前年より確実に増えている。採用活動も前倒し傾向である。業績上向きによる新規採用が増えつつある。
	学校〔大学〕（就職支援業務）	採用者数の動き	・わずかではあるが、新卒の採用計画をしている企業が見受けられる。	
変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・派遣の依頼が増えたが、派遣期間後の正社員雇用となった時の給与設定が低くなり、正社員になるメリットが少なくなっている。また、段階的に契約社員、準社員、正社員とする企業もあるが、その期間は長く、試験等の条件も厳しいため、労働者には厳しい環境となっている。	
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数は、前年を上回って推移している。	
	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・給食センターのような労働集約型の仕事に人が集まらなくなっている。時給単価が低く、朝早くから夜遅くまでの勤務体制、年中無休であるため、もともと人の採用が難しい事業体であるが、ここにきて一段と採用が難しくなっている。条件の悪いところを選ぶ必要がないほど、求人数が増えている。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・夏を迎え、本格的に節電の影響が心配されるようになり、企業の経済活動は萎縮するが、現在求人状況に大きな変化はない。	

	職業安定所（所長）	求職者数の動き	・新規求人は前年比で増加傾向が続いていたが、年度が変わり、わずかに減少している。一方で、新規求職者についても離職者が増えており、2けたの増加となったが、前年比ではわずかながら減少した。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求職者は前年比11.2%減少しているが、新規求人については、同2.3%の微増にとどまっている。
	民間職業紹介機関（社員）	求人数の動き	・年度末の繁忙が一段落し、人の動きがない状況である。国の新卒採用支援の動きがあるが、引き受ける企業がなかなかみつからない。
やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・大手製造メーカーの半導体の大規模集積回路の国内事業に陰りが出ており、国内の工場は縮小の傾向にある。海外で売れる物だけに選択と集中が進み、事業展開及び生産拠点は海外にシフトしていく。そのなか、国内の雇用はより一層の減少となっている。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・自動車や半導体の影響が大きく、大型の新聞求人広告が減少している。
	民間職業紹介機関（支店長）	求人数の動き	・求人数が前年同期に比べても減少している。4月以降、上昇傾向を示さず、低迷状態である。
悪くなっている	-	-	-